

後期高齢者健診及び生活保護受給者等健診の検査項目

	検査項目	検査の目的・考え方
診察等	質問（問診）	健康状態・喫煙・服薬・既往症などを確認します。
	身長	身長と体重の割合からBMI（体格指数）を算出し、標準体重、肥満、やせの具合を調べます。
	体重	
	BMI	体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)で算出します。25以上は太り過ぎで、糖尿病、高血圧、脂質異常症、痛風、脂肪肝など、さまざまな病気を引き起こします。18.5未満はやせ過ぎです。
	腹囲	内臓脂肪の蓄積具合を調べます。内臓脂肪の面積が100㎢に対応する腹囲の目安が男性85cm以上、女性90cm以上です。
	血圧	血圧が高いほど心疾患や脳血管障害の発生する危険が高くなります。
血中脂質	中性脂肪	過食やアルコールの飲みすぎなど、食生活が大きく影響します。150mg/dl以上になると動脈硬化が進んだり、脂肪肝の原因になることがあります。
	HDLコレステロール	血液中の余分なコレステロールを回収して肝臓に運び戻します。動脈硬化を防ぐことから「善玉コレステロール」と呼ばれています。
	LDLコレステロール	肝臓でつくられたコレステロールを全身の細胞に運ぶ働きをしています。増えすぎると、血管を詰まらせたり動脈硬化を引き起こすため、「悪玉コレステロール」と呼ばれています。
肝機能	AST（GOT）	肝臓・心臓・筋肉の病気がある場合は、値が高くなります。
	ALT（GPT）	肝臓に異常がある場合は、値が高くなります。
	γ-GT（γ-GTP）	肝臓が特にアルコールによる障害を受けた場合に上昇します。一般にアルコールによる肝臓障害の指標になります。
代謝系	尿糖	健康時には血液中のブドウ糖は腎臓で再吸収され尿の中には出ません。しかし、血糖値が高くなると腎臓での吸収がうまくいかずに尿に糖が出やすくなります。
	HbA1c	食後時間に影響されにくい、過去1～2か月間の平均の血糖値を反映するため、糖尿病の診断、長期間の血糖コントロールの目安となります。
	血清尿酸	尿酸が高い状態が続くと痛風になる危険があり、動脈硬化も進みます。
尿・腎機能	尿蛋白	陽性（+、++、+++以上）の場合、腎臓、尿管、膀胱、尿道などの異常発見の手がかりになります。
	血清クレアチニン	老廃物の一種で、腎臓の機能が低下すると排泄できなくなり、血液中に増加します。
貧血検査	赤血球数	貧血は、血液中の色素が不足している状態です。赤血球も共に減少する場合があります。ヘマトクリットは、血液中の赤血球の割合を示すもので、値が低いと貧血が疑われ、値が高いと血管が詰まりやすい状態であることがわかります。
	血色素量	
	ヘマトクリット値	
	心電図検査	心筋の働きの状態を電氣的に記録したもので、不整脈、心筋の肥大等の心臓の異常を調べます。
	眼底検査	肉眼で見られる唯一の血管である網膜の変化を見ます。目の病気だけでなく、動脈硬化・高血圧・糖尿病性変化などの所見が得られます。